



図書館だより

令和5年10月
八尾高校図書館
21H 阿部・森



図書委員が読書の秋におすすめする小説

短い時間で読みやすい短編小説とじっくりと読みたい長編小説を、図書委員会が2冊ずつ選びました(a)。



「世界でいちばん透きとおった物語」 杉井光 新潮社

大御所ミステリー作家の宮内彰吾が死去した。宮内は妻帯者ながら多くの女性と交際し、そのうちの一人と子供まで作っていた。宮内彰吾は死ぬ間際に『世界でいちばん透きとおった物語』という小説を書いていたらしい。何か知らないかという宮内の長男からの連絡をきっかけに始まった遺稿探し。編集者の霧子さんの助言をもとに調べるのだが——。予測不可能の結末が待つ、衝撃のラストにあなたの見る世界は『透きとおる』



「5分後に〇〇なラスト」 エブリスタ/編 河出書房新社

この本は、テーマごとに5分で読める短編小説が集められています。また、ここに収録されている小説は、応募された多くの作品から厳選したものです。そのため、内容や書き方も様々で、とても、楽しんで読むことができます。さらに、色々なラストがあり、自分の気になるラストの小説を選ぶことができます。皆さんも、ぜひ、一度、手に取って読んでみてください。



「悲鳴伝」 西尾維新 講談社

2012年10月25日、午前7時32分「大いなる悲鳴」と呼ばれる謎の災害によって人類の3分の1が死滅した世界。半年後の2013年5月27日、飢血木診療所を訪れた少年、空々空は、自分が何事にも心を動かされない人間であることに苦勞していた。

しかし、この問診によって素質を見出された空々は地球撲滅軍を名乗る謎の組織に勧誘される。その内容は「人類を滅ぼそうとする悪しき地球と闘うヒーローになってほしい」というものであった……





「54字の物語」 氏田雄介 PHP 研究所

この本には 54 字の物語が 100 個書かれていて、物語は意味が分かれると怖い内容になっている。そして次のページには、解説があり、時々思っていたよりも、更に怖い内容のものがあ、驚かされる。毎回物語の真相を考えることになり、推理が好きな人はとても楽しめる。また、短編の物語が集まっているため、隙間時間等にサクッと読むことが出来る。日常のちょっとした隙間時間を埋めたい人にもおすすめ。



新着図書紹介



- なぜ、おかしな名前はパピペポが多いのか? 言語学者、小学生の質問に本気で答える: 川原繁人
- 言語オタクが友だちに700日間語り続けて引きずり込んだ言語沼: 堀元 見/水野 太貴
- 貯金すらまともにもできていませんが この先ずっとお金に困らない方法を教えてください!: 大河内 薫
- リーダーの仮面 —— 「いちプレーヤー」から「マネジャー」に頭を切り替える思考法: 安藤広大
- とにかく仕組み化 —— 人の上に立ち続けるための思考法: 安藤広大
- 数値化の鬼 —— 「仕事ができる人」に共通する、たった1つの思考法: 安藤広大
- PTSDの日本兵の家族の思いと願い: PTSDの復員日本兵と暮らした家族が語り合う会
- 「表現力」に差がつく! 12歳までに知っておきたい言い換え図鑑: 齋藤 孝 獣の夜: 森 絵都
- 「伝える力」が伸びる! 12歳までに知っておきたい語彙力図鑑: 齋藤 孝 可燃物: 米澤 穂信
- 日本人が知らない戦争の話 アジアが語る戦場の記憶: 山下清海 1年で億り人になる: 戸塚真由子
- 消防レスキュー隊員が教えるだれでもできる防災事典: タイチャー カブトムシの謎をとく: 小島渉
- ステージ4の緩和ケア医が実践する がんを悪化させない試み: 山崎 章郎 不器用で: ニシダ
- すべての恋が終わるとしても [1] [2]: 冬野夜空 天才性が見つかる 才能の地図: 鈴木祐
- 自衛隊の闇組織 秘密情報部隊「別班」の正体: 石井 暁 あなたが誰かを殺した: 東野 圭吾
- 動物たちは何をしゃべっているのか?: 山極寿一/鈴木俊貴 極楽征夷大將軍: 垣根 涼介
- タフラブ 絆を手放す生き方: 信田 さよ子 木挽町のあだ討ち: 永井紗耶子
- 栗山ノート2 世界一への軌跡: 栗山英樹 ぼくが選ぶぼくのいる場所: 吉富多美
- 「発達障害」と間違われる子どもたち: 成田奈緒子 十戒: 夕木春央
- 瞬時に「言語化できる人」が、うまくいく.: 荒木俊哉 ハンチバック: 市川 沙央
- 八月の御所グラウンド: 万城目学



読書週間について



終戦まもない1947年(昭和22)年、まだ戦火の傷痕が至るところに残っているなかで「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと、出版社・取次会社・書店と公共図書館、そして新聞・放送のマスコミ機関も加わって、11月17日から、第1回「読書週間」が開催されました。そのときの反響はすばらしく、翌年の第2回からは期間も10月27日~11月9日(文化の日を中心にした2週間)と定められ、この運動は全国に広がっていきました。

